

NOISED ABOARD

中国

大陸的流行音楽の新風

蘇越 Su Yue (訳=橋爪大三郎)

この10年来、中国はめざましい変化をとげてきた。この変化を、海外の人びとが、政治・経済の観点から話題にすることは多い。だが、音楽となると、まるで注目されてこなかった。どうせ中国には民族音楽しかないだろう、みたいに思われていたからだ。実は知らないうちに、巨大な変化がうまれている。ポピュラー音楽(流行音楽)のニューウェーブが、目を見張るほどのすばらしい速度で成長しつつあるのである。数年まえに出現した「西北風」は、素朴で豪快で粗削りな味わいと、奥深くて切れ味のするどい思想内容とをそなえている。そこに最新の、欧米ポピュラー音楽のアレンジも加わって、徐々に新しいスタイルを産み出すにいたった。これが、中国内

外のポピュラー音楽シーンを、文字どおり震撼させている。

「西北風」は、中国の西北高原の



筆者の作品集

広漠とした、粗削りで豪快な民族音楽の調べを感情のベースにしている。それに、欧米の最新アレンジを施して、中国特有のロック(摇滚)が出来あがった。その代表曲「一無所有」「黄土高坡」は、ごく短時間のうちに、日本を除く大部分の在外中国人社会でたちまちヒット曲となった。「一無所有」と「血染的风采」は、89年度の「香港中文十大金曲」(レコード大賞のようなもの)を、見事受賞。香港、台湾、シンガポール、マレーシアでも、この二曲はビッグ・ヒットになっている。

香港の雑誌「音楽通訊」の評論家は、つぎのように書いている。

「一無所有」「血染的风采」は、内容が豊かな曲だ。聴いていると、心が、見渡す限りはてしない大地のように感じられてくる。われわれはなんと、チマチマしたスケールで生きてきたんだらうと思わざるをえない。減多な作曲家の、遠く及ぶところではない。

この評論は、替りすぎのきらいもある。ただ何と言っても、中国のポ

ピュラー音楽は、始まってから今日まで、まだわずか10年の歴史しかないのだ。その途中、雨も降り風も吹き、いつも困難ばかりだったし、今もって然るべき地位も確立していない。

だが、これしきのこと、国内国外の中国人ポピュラー音楽家たちが、へこたれるものか。彼(女)らはこれから、中国のポピュラー音楽が世界

にはばたくよう、努力を続けるだろう。

この10年を振り返ると、ポピュラー音楽の変化は、中国の変化を映しだしている。一九八〇年から、欧米、日本、香港・台湾のいろんなポピュラー音楽が、どつと中国に流れこんできて、中国に「百花齊放」をもたらしした。その時以来、中国のポピュラー音楽家たちは、興奮と苦

悩の入り交じった新しい時代に入ることになったのである。世界のポピュラー音楽界と、技術、設備、意識の点で大きく遅れをとっていることに、はつきり目を醒まされた。そのうえ、各方面からの圧力が不断にかけられていて、ポピュラー音楽を発展させるのは、とても難しいことでもあるのだ。

10年の風雪に耐え、いよいよ、中国のポピュラー音楽もひとり立ちできる日がきた。



THE WINDOW IS OPENED
CHINESE NEW WAVES VOLUME 1
中国新音乐系列之一

東方歌舞團錄音公司製作
永聲音樂出版有限公司出版

10年の風雪に耐え、いよいよ、中国のポピュラー音楽もひとり立ちできる日がきた。先ごろ香港、シンガポール、台湾、マレーシアで一斉に、「開天闢地」と題する、中国のニューウェーブを紹介するカセット・テープが発売になり、同地の人びとのあいだで大評判になっている。外箱のデザインから、中身の音楽まで、何もかも新しい試み、新しい感覚なのは言うまでもない。この「開天闢地」というテープから、人びとはようや

く中国ポピュラー音楽の、新天地を目に、いや耳にすることになったのである。

ごく近い将来、中国のポピュラー音楽は、日本にも受け入れられるのではないか。日本の音楽ファンの皆さんにも、喜んでもらえる嬉しい、さあ昇れ、太陽よ。もつと高く、もつと高く昇れ!。

インドネシア

テンポは遅いがヘヴィに

篠崎 弘

昨年11月、ジャカルタのタクシートのカーラジオで、シーラ・マジッドの「シナラン」に続いて流れたのがツェペリンの「天国への階段」。思わずなごんでしまった。

今ジャカルタでやたらに流行っているのが、スロー・ロックなるジャンルだ。カセット屋にはスロー・